

# 佐賀県で育成したカンキツ「佐賀果試34号」の特性等

## 1. 育成のねらい

平成5年頃から「不知火（デコポン）」が佐賀県にも導入され、食味が良く糖度が高いことから高単価で取引されています。

しかし、「不知火」は樹勢が弱りやすく、そのため減酸不良や果実の小玉化などの問題が産地で発生しています。

そこで、県果樹試験場では「不知火」よりも樹勢が強く、成熟期が早いカンキツ「佐賀果試34号」の開発を行ないました。



「佐賀果試34号」の着果状況

## 2. 「佐賀果試34号」の特性

- (1) 「不知火」に比べて樹勢が強い。
- (2) 「不知火」に比べて果実が重い。
- (3) 「不知火」に比べて果形は縦長で、果梗部の凸が大きい傾向。
- (4) 「不知火」に比べて成熟期が早く露地栽培で1月中旬頃。  
(熟期は栽培地、栽培条件により前後する。)

### 《留意事項》

- ★苗木は定植後、特に1～2年間は「トゲ」が多発する。
- ★結実初期は着花量が少ない傾向にある。

## 3. 苗木の配布に当たっての基本的考え方

「不知火」では、樹勢低下や減酸不良の発生が、特に接木した樹体で顕著です。

「佐賀果試34号」は「不知火」の珠心胚育種で育成した品種であり、本品種を接ぎ木した場合にそのような問題が発生することも懸念されます。

このため、本品種の生産者への配布に当たっては、苗木での配布を基本とします。

### ◎年別の配布実績

項目	配布本数(本)	面積(a)	備考
平成18年3月	10,500	1,050	面積は100本/10aで換算し、試算
平成19年3月	51,140	5,114	
平成20年3月	9,692	969	
平成21年3月	4,927	493	
平成22年3月	1,470	147	
平成23年3月	6,110	611	
平成24年3月	5,310	531	
平成25年3月	7,477	748	
平成26年3月	5,937	594	
平成27年3月	3,938	394	
平成28年3月	2,321	232	
平成29年3月	1,151	115	
平成30年3月	1,116	112	
平成31年3月	545	55	
令和2年3月	630	63	
令和3年3月	110	11	
令和4年3月	154	16	
令和5年3月	35	4	
令和6年3月	40	4	
令和7年3月	190	19	
合計	112,793	11,279	